

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：32685

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K13280

研究課題名（和文）長期育児休業を取得した男性の心理的側面の解明と企業がとるべき心理社会的支援の検討

研究課題名（英文）Investigating the Psychological Characteristics of Men Who Have Taken Long-Term Parental Leave and Examining the Psychosocial Support That Companies should Offer

研究代表者

尾野 裕美（Ono, Hiromi）

明星大学・心理学部・准教授

研究者番号：20754469

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、1ヶ月以上の育休を取得した男性に焦点を当て、キャリア意識や心理社会的変化などの心理的側面を解明し、男性の長期育休取得を促進するための企業がとるべき心理社会的支援について検討した。インタビュー調査により、長期育休を取得した男性の内的変容プロセスや、企業における男性の育休取得推進プロセスを明らかにした。また、インターネット調査を通して、男性の育休がキャリア自律やワーク・ファミリー・ファシリテーションに及ぼす影響を明らかにした。さらに、郵送調査により、企業における男性の育休取得推進策とその成果との関連について明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、男性の育休取得に関して心理学的なアプローチをしている点、また、これまで扱われてこなかった長期育休を取得した男性の心理的側面に迫る点にある。本研究の成果は、長期育休の取得を躊躇している男性の助けとなり、企業に対しては、従来の制度的な取り組みに加え、どのような支援が必要なのかを検討するうえでの示唆を与えられると考える。さらに、介護と仕事の両立、病気の治療と仕事の両立といった政府が掲げる喫緊の社会的課題の解決に寄与できるだろう。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on men in Japan who have taken parental leave for a month or longer, investigating the psychological aspects, such as career awareness and psychosocial changes, and examining the psychosocial support that companies should offer to facilitate access to long-term parental leave for men. An interview survey revealed processes relating to internal transformation among men who took long-term parental leave and processes relating to facilitating men's access to parental leave within companies. Furthermore, an online survey elucidated the effects of parental leave on career self-reliance and work-family facilitation among men. A postal survey further addressed the relationship between the measures taken by companies to facilitate access to parental leave for men and the results of those measures.

研究分野：産業・組織心理学

キーワード：男性の育児休業 ワーク・ライフ・バランス キャリア意識 キャリア発達 育児休業取得支援 ダイバーシティ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、わが国では女性の社会進出が進み、勤労者世帯の過半数は共働き世帯となっている。2010年には、男性の育児休業取得促進策が盛り込まれた育児・介護休業法の改正が行われたが、育児休業取得状況は女性と男性の間に依然として大きな隔りがある。平成28年度雇用均等基本調査(厚生労働省,2017)によれば、男性の取得率は過去最高となったとはいえ、わずか3.16%にとどまっている。政府は2015年の第4次男女共同参画基本計画において、男性の育児休業取得率を2020年までに13%に引き上げるとしているが、その目標にはほど遠い。しかも、男性の育児休業取得日数は、5日未満が56.9%と最も多いのが現状である。

2. 研究の目的

本研究では、1ヶ月以上の長期育児休業を取得した男性に焦点を当て、キャリア意識や心理社会的変化などの心理的側面を解明し、男性の長期育児休業取得を促進するために企業がとるべき心理社会的支援について検討することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 研究1では、民間企業において1ヶ月以上の長期育児休業を取得した男性14名を対象としたインタビューを実施し、質的研究法の一つである修正版グラウンテッド・セオリー・アプローチ(以下、M-GTAと略す)により分析を行った。

(2) 研究2では、1ヶ月以上の長期育児休業を取得した男性が所属する民間企業12社の協力を得て、人事担当者を対象としたインタビュー調査を行った。分析に当たってはM-GTAを用いた。

(3) 研究3では、10歳未満の子をもつ既婚の20代~40代の男性就業者653名を対象としたアンケート調査を行った。データ収集に際してはインターネット調査会社を用いた。

(4) 研究4では、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を受けている企業を対象とした郵送によるアンケート調査を行った。2,590社に質問紙を配布し、429社から回答を得た(回収率16.6%)。このうち男性正社員の育休取得を推進していると回答した300社を分析対象とした。

4. 研究成果

(1) 研究1では、長期育休を取得した男性の内的変容プロセスについて検討した結果、第一に、意思決定は、育休取得の願望、ポジティブ思考、情報収集、育休取得男性との接点により促進されること、第二に、自分中心のキャリア意識は、ワークライフバランスへの関心、キャリアの再探索を経て、キャリア自律やワークとライフの統合というキャリア意識へと変容すること、第三に、復職後は、効率的な働き方、信頼関係を大事にする働き方、働き方改革への取り組みといった行動が生じることが明らかとなった。

(2) 研究2では、企業における男性の育休取得推進プロセスについて検討した結果、第一に、男性の育休取得を推進する企業は、ワークライフバランスを経営戦略として位置づけていること、第二に、男性の育休取得を推進する取り組みとして、促進ルール策定と風土醸成が挙げられること、第三に、男性の育休取得を推進した結果、ワークライフバランスの実現や組織体制の強化といった成果が得られることが明らかとなった。

(3) 研究3では、働く父親の育休がキャリア自律およびワーク・ファミリー・ファシリテーションにどのような影響を及ぼすのかを検討した。分析の結果、育休が、キャリア自律の構成要素である「職業的自己イメージの明確さ」「環境変化への適応行動」「キャリア開発行動」「ネットワーク行動」「主体的仕事行動」を促すことが明らかとなった。また、育休が、仕事領域から家庭領域へのワーク・ファミリー・ファシリテーションを促すことが示された。

(4) 研究4では、男性の育休取得を推進している企業における促進ルール策定、風土醸成、職場支援といった具体策について、男性の育休取得推進の成果との関係から検討した。分析の結果、第一に、促進ルールを策定している企業のほうがワークライフバランスの実現を成果として認知していること、第二に、男性の育休に関する情報を会社として幅広く提供することが、従業員の意識変化やワークライフバランスの実現につながること、第三に、人事などの管理部門が上司

に対して、職場全体の業務を調整することや、職場のメンバーが助け合える協働体制をつくることを助言している企業のほうが、職場の業務効率化が進んだことを成果として認知していることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 7件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 尾野裕美	4. 巻 34
2. 論文標題 企業における男性の育児休業取得推進プロセスに関する探索的検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業・組織心理学研究	6. 最初と最後の頁 43-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32222/jaiop.34.1_43	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 尾野裕美	4. 巻 34
2. 論文標題 働く父親の育児休業がキャリア自律およびワーク・ファミリー・ファシリテーションに及ぼす影響	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業・組織心理学研究	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32222/jaiop.34.1_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 尾野裕美	4. 巻 39
2. 論文標題 長期育児休業を取得する男性のイメージに関する探索的検討－正規雇いで働く父親を対象に－	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 明星大学心理学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 尾野裕美	4. 巻 33
2. 論文標題 長期育児休業を取得した男性の内的変容プロセスに関する探索的検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 産業・組織心理学研究	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32222/jaiop.33.1_35	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 尾野裕美	4. 巻 17
2. 論文標題 夫の育児休業と妻のキャリア - 妻のキャリア自律およびワーク・ファミリー・ファシリテーションに着目して -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 キャリアデザイン研究	6. 最初と最後の頁 97-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 尾野裕美	4. 巻 40
2. 論文標題 企業における男性の育児休業取得推進策とその成果に関する研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明星大学心理学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 尾野裕美	4. 巻 40
2. 論文標題 働く母親が長期育児休業を取得する男性に対して抱くイメージに関する探索的検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明星大学心理学研究紀要	6. 最初と最後の頁 33-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 尾野裕美
2. 発表標題 企業における男性の育児休業推進の背景と成果に関する探索的検討
3. 学会等名 産業・組織心理学会第35回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尾野裕美
2. 発表標題 長期育児休業を取得した男性のキャリア意識変容プロセス
3. 学会等名 産業・組織心理学会第34回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 尾野裕美
2. 発表標題 企業における男性の育児休業取得推進策とその成果
3. 学会等名 産業・組織心理学会第36回大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 岡田昌毅・尾野裕美・須藤章・中村准子・原恵子・三好きよみ・山岸由紀	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 210
3. 書名 働くひとの生涯発達心理学Vol.2 M-GTAによるキャリア研究	

1. 著者名 岡田昌毅・尾野裕美・須藤章・原恵子・前田具美・三好きよみ・持田聖子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数
3. 書名 働くひとの生涯発達心理学Vol.3 M-GTAによるキャリア研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------